

地産地消の取組「志布志湾ぶえん祭り」を支援2

大隅地域振興局 林務水産課

【背景・目的】

志布志湾岸に隣接する内之浦漁協，高山漁協，東串良漁協，志布志漁協の4漁協は，漁業者の漁業所得向上並びに地域水産業振興を目的に協議会を立ち上げ，平成22年より毎月1回，東串良町の物産館敷地内で，朝獲れの魚介類等を直販する「志布志湾ぶえん祭り」を開催し，地元で水揚げされる鮮魚等のPR・地産地消の推進を図っている。

【普及の内容・特徴】

地産地消の推進を図るため，協議会に参加し，PR・直販手法等の指導・支援を行った。

(1) 直販場所

東串良町物産館「ルピノンの里」

(2) 開催日時

毎月第4土曜日の午前11時から（12月は2周年イベントを第3土曜日に開催）

(3) PR・直販手法等の指導

協議会に参加し，水産物販売に併せて行うイベント企画に参画したほか，販売手法等の検討・指導等を行った。

(4) イベント開催の支援

平成23年12月17日に開催された「2周年記念志布志湾ぶえん祭り」の企画，実施を支援した。

【成果・活用】

(1) 直販状況

平成23年度も昨年に引き続き毎月1回午前11時の開催とした。出品数は魚介類43種（定置網主体の漁獲物で（アジ，カマス，サバ，スルメイカ，ミクリガイ等），時期に応じて8～16種／回），加工12品（チリメン，イリコ，佃煮等：0～5品／回），販売量は97～251kg／回（昨年：150～950kg／回），売上額は5～15万円／回（昨年：10～27万円／回）の範囲であった。

なお，販売手法は，テント内の机に陳列した水産物は「見本」と位置付け，移動販売許可車からの販売形式で行った。

(2) イベント状況

4漁協，1漁協青壮年部，役場の担当者等，総勢21名で水産物等の販売（アジ子，カマス，ソウダカツオ，ミズイカ，チリメン等16品目），海鮮汁の提供，希望する方への捌き方教室を実施し，地産地消のPRを図った。ただし，当日は1週間繰り上げ開催のPR不足と寒波による天候不良により，来客数が思ったほど伸びず，今後の取組に対する検討課題となった。

【その他】

「朝獲れ直産」を売りにしているため，天候により鮮魚等の確保が不安材料であるほか，来客者が固定化されつつあることが課題となっており，販売数量，売上金額は昨年より減少傾向の状況である。今後，告知範囲や方法について再度検討する必要がある。

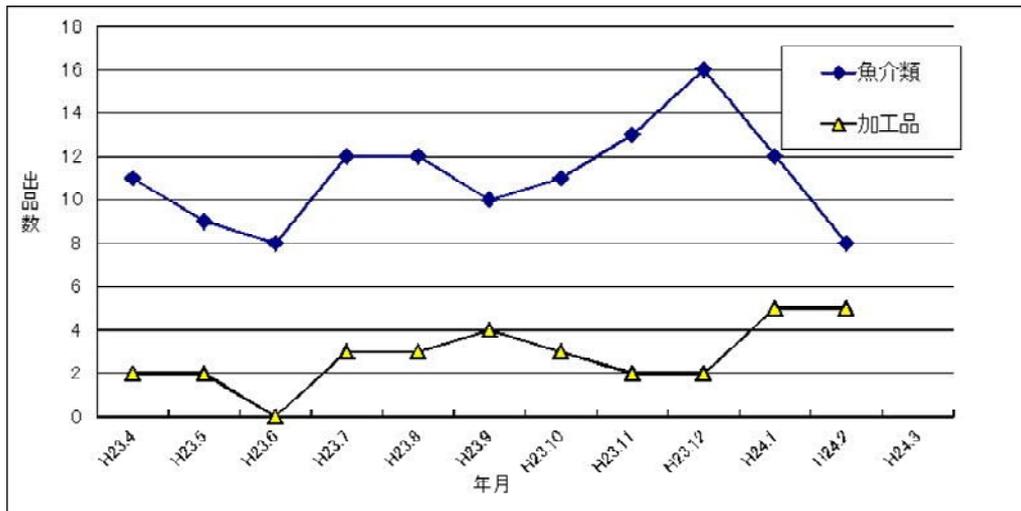


図-1 出品数の推移

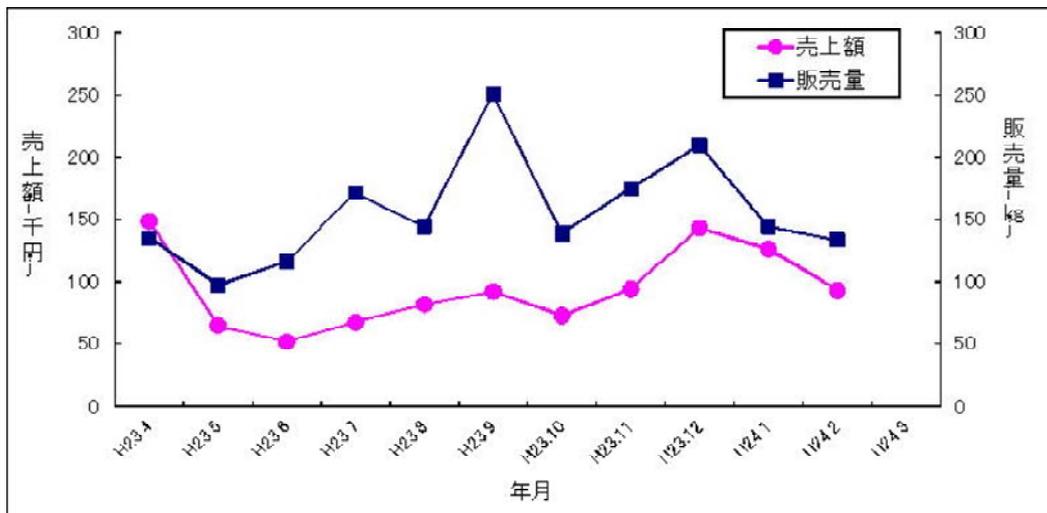


図-2 売上金額, 販売数量の推移



図-3 会場



図-4 直販



図-5 海鮮汁



図-6 振舞



図-7 捌き方教室